

石工と大聖堂の話

中世ヨーロッパでは教会や大聖堂が多数造られた。多くが100年以上かかるものがあった。現在建築中のものでは、スペイン、バルセロナ サグラダファミリアがある。天才建築家A. ガウディの構想したものだ。既に100年が経過し、現在も建築中。

石工の話とはこうだ。ある人が聖堂の大理石の加工中の3人の石工職人に聞いた。
「あなたは毎日、何のために働いているのですか？」とすると

Aの石工は・・・家族を養うため・・・つまりお金を稼ぐため・・・と答えた

Bの石工は・・・この国一番の名工になる為・・・・・・・・・・と答えた

Cの石工は・・・世界遺産になるような歴史に残る大聖堂を造っている・・・と答えた

いずれも正しい答えだ。そして、外見的には3人とも毎日同じ切削作業をやっている。
問題はこの石工それぞれの答えの<マインド>を、経営者としてどう考えるかだ。

会社という組織を永続させ、優秀で前向きな人材を長く確保するにはどうしたら良いか？

.....**永遠の命題だ。**

「モチベーション」=やる気の事だ。人間誰でもやる気は出す。しかし、瞬間的には出せても永続的に出すのが難しい。上司や経営者が叱咤しても、永続するとは限らない。

石工のAさんはもっと賃金の良い職場があれば移るだろう。Bさんは、自分の腕を磨ける別の仕事場に移る可能性もある。誰もがCさんのように働いてもらいたい。しかし、問題は・・

経営者が従業員の皆が、**Cさんのように働く、モチベーションの源泉になる「大聖堂」を描き**、示しているかどうかだ。その**設計図は経営者が描く必要がある**。会社経営でいえば**中期5年経営計画**や、**長期10年ビジョン**などがあるかどうかだ。・・・社長の頭の中だけでなく明確に。

会社を、組織を、発展させるには、人材が必要だが、その人材に力を発揮させ、永続的に貢献してもらうには、「大聖堂」が必要なのです。**100年を超えるビジョン！**ありますか？その必要性を理解していましたか？

人材を確保し育成し、永年にわたって貢献してもらう・・・成長する、良い会社の条件です。
人材募集のテクニックに力を入れるより、「大聖堂」を**構想し、具体的に示すことこそ人材を引き付ける秘訣**であり、定着させるコツです。即効性はないが正しい方法<王道>です。

従業員はあなたの描く「大聖堂」が社長の本音なのか、単なる建て前なのかすぐ見抜きますよ。